

# 第31回「山形県内企業の景気動向調査」確報

(平成24年5~6調査)

## 【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」でみて、16.6(前回調査比 17.8 ポイント上昇)となり、前年同期は東日本大震災の影響により業績が悪化していた企業が多かったことなどから、DI値が当社の調査(平成16年11月から開始)史上最高値となった。また「自社の業況DI値(前期比)」でみても、2.4(前回調査比 4.6 ポイント上昇)と回復したことから、県内企業の業況は回復傾向であると考えられる。
- **業種別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、建設業で12.5(前回調査比7.2ポイント上昇)、製造業で13.5(前回調査比20.5ポイント上昇)、卸・小売業で8.0(前回調査比5.5ポイント上昇)、サービス業で34.5(前回調査比38.0ポイント上昇)とすべての業種においてDI値がプラスとなり、大幅な回復が見られた。また「自社の業況DI値(前期比)」でみても、すべての業種で回復した。
- **地域別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、村山南部で14.7(前回調査比18.4ポイント上昇)、村山北部で7.2(前回調査比19.8ポイント上昇)、最上で23.5(前回調査比4.3ポイント上昇)、置賜で19.1(前回調査比27.0ポイント上昇)、庄内田川で15.6(前回調査比21.9ポイント上昇)、庄内飽海で21.4(前回調査比10.9ポイント上昇)となり、すべての地域で回復している結果となった。また「自社の業況DI値(前期比)」でみると、置賜で17.7(前回調査比22.5ポイント上昇)と大幅に回復した。
- **先行き見通し**は、「自社の業況DI値」が▲8.1(今回調査比24.7ポイント下落)と、一転して大幅に悪化する見込みとなっている。要因として、依然として先行き不透明な円相場、原油価格、電力供給、欧米の経済情勢など諸情勢を懸念している結果と考えられる。

## 【 特別調査 】

- **夏季ボーナスについて**尋ねたところ、県内企業の49.1%が「支給する」と回答した。「支給しない」と回答をした企業は26.3%であった。昨年(H23.05)の調査時点と比較すると、「支給する」企業の割合は9.4ポイント増加する一方で、「支給しない」企業の割合は7.0ポイント減少した。
- **新卒者の採用状況について**尋ねたところ、全業種で32.3%の企業が採用し、昨年と比較すると2.2ポイント上昇している。

平成24年6月

株式会社フィデア総合研究所

## 目次

I. 県内企業の業況.....	1
1. 概況.....	1
2. 業種別の動向.....	2
(1) 業種別の概況.....	2
(2) 業種別D I 値の動向.....	3
① 建設業.....	3
② 製造業.....	5
③ 卸・小売業.....	7
④ サービス業.....	9
3. 地域別の動向.....	11
(1) 地域別の概況.....	11
(2) 地域別D I 値の動向.....	12
① 村山南部.....	12
② 村山北部.....	13
③ 最上.....	14
④ 置賜.....	15
⑤ 庄内田川.....	16
⑥ 庄内飽海.....	17
II. 景気の天気予報図.....	18
III. 特別調査.....	19
1. 夏季ボーナスについて.....	19
(1) 支給予定動向.....	19
(2) 支給予定額について.....	20
2. 新卒者の採用状況について.....	21
<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>.....	22
<参考資料Ⅱ：調査の概要>.....	22

## I. 県内企業の業況

### 1. 概況

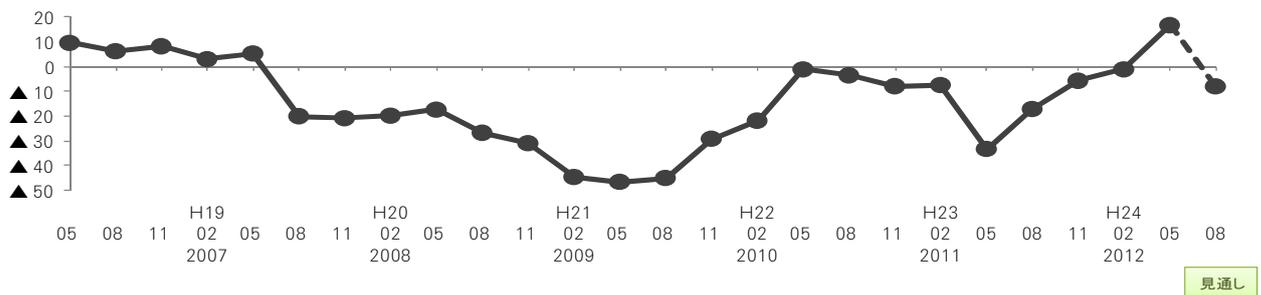
#### 現況判断：上向きつつある

県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」でみて、16.6(前回調査比17.8ポイント上昇)となり、前年同期は東日本大震災の影響により業績が悪化していた企業が多かったことから、DI値が当社の調査(平成16年11月から開始)史上最高値となった。また「自社の業況DI値(前期比)」でみても、2.4(前回調査比4.6ポイント上昇)と回復したことから、県内企業の業況は回復傾向であると考えられる。「各種DI値(前年同期比)」でみると、売上高が18.8(前回調査比16.1ポイント上昇)と回復幅が一番大きく、特にサービス業の売上高増加が寄与しているものと考えられる。

#### 来期の見通し：先行き不安感が先行している

先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲8.1(今回調査比24.7ポイント下落)と、一転して大幅に悪化する見込みとなっている。要因として、依然として先行き不透明な円相場、原油価格、電力供給、欧米の経済情勢など諸情勢を懸念している結果と考えられる。

図表1 全業種「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
H 23.05 (n=532)	▲ 33.3	(▲ 25.8)	▲ 21.5	▲ 27.2	▲ 31.9	▲ 16.9	▲ 23.7
H 23.08 (n=500)	▲ 17.2	(16.1)	▲ 37.4	▲ 12.8	▲ 17.6	▲ 2.2	▲ 18.0
H 23.11 (n=497)	▲ 5.8	(11.4)	▲ 15.2	▲ 3.2	▲ 5.8	9.8	▲ 11.9
H 24.02 (n=505)	▲ 1.2	(4.6)	▲ 13.1	2.7	▲ 3.6	5.3	▲ 8.7
<b>H 24.05 (n=505)</b>	<b>16.6</b>	<b>(17.8)</b>	<b>▲ 18.9</b>	<b>18.8</b>	<b>8.0</b>	<b>3.5</b>	<b>0.4</b>
前回調査比	-	-	-	(16.1)	(11.6)	(▲ 1.8)	(9.1)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 8.1</b>	-	-	<b>▲ 7.7</b>	<b>▲ 13.1</b>	<b>7.1</b>	<b>▲ 19.2</b>
今回調査比	(▲ 24.7)	-	-	(▲ 26.5)	(▲ 21.1)	(3.6)	(▲ 19.6)

【参考】前期比の自社業況DI値

山形県 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)		売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比				
H 23.05 (n=532)	▲ 32.9	(▲ 26.0)	▲ 30.1	▲ 33.8	▲ 16.8	▲ 24.6
H 23.08 (n=500)	▲ 10.8	(22.1)	▲ 8.6	▲ 14.2	▲ 1.4	▲ 17.6
H 23.11 (n=497)	3.4	(14.2)	11.2	▲ 0.8	9.6	▲ 12.0
H 24.02 (n=505)	▲ 2.2	(▲ 5.6)	1.8	▲ 6.6	5.9	▲ 13.7
<b>H 24.05 (n=505)</b>	<b>2.4</b>	<b>(4.6)</b>	<b>6.6</b>	<b>▲ 4.0</b>	<b>2.7</b>	<b>▲ 5.3</b>
前回調査比	-	-	(4.8)	(2.6)	(▲ 3.2)	(8.4)

※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

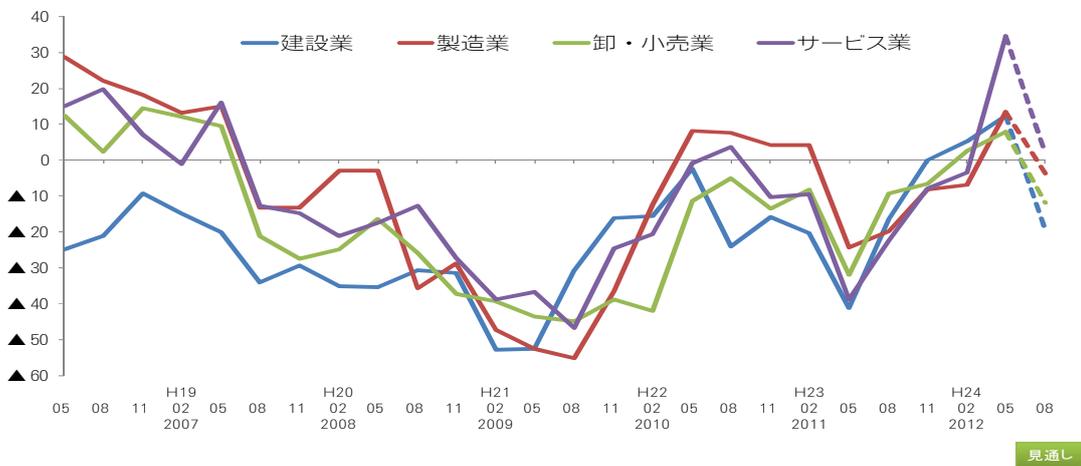
## 2. 業種別の動向

### (1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、建設業で12.5(前回調査比7.2ポイント上昇)、製造業で13.5(前回調査比20.5ポイント上昇)、卸・小売業で8.0(前回調査比5.5ポイント上昇)、サービス業で34.5(前回調査比38.0ポイント上昇)とすべての業種においてDI値がプラスとなり、大幅な回復が見られた。また「自社の業況DI値(前期比)」でみると、サービス業で8.9(前回調査比8.0ポイント上昇)と回復度合いが高く、この要因として飲食業や宿泊業など対個人向けサービス業の業況回復などが考えられる。

一方で、業況の先行き見通しは全業種で下落の見通しとなっており、特に建設業やサービス業の悪化幅が大きい。

図表2 業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

業種別 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=532)	▲33.3	▲41.2	▲24.4	▲31.9	▲38.9
H 23.08 (n=500)	▲17.2	▲16.4	▲19.8	▲9.2	▲22.5
H 23.11 (n=497)	▲5.8	0.0	▲8.1	▲6.7	▲7.9
H 24.02 (n=505)	▲1.2	5.3	▲7.0	2.5	▲3.5
<b>H 24.05 (n=505)</b>	<b>16.6</b>	<b>12.5</b>	<b>13.5</b>	<b>8.0</b>	<b>34.5</b>
前回調査比	(17.8)	(7.2)	(20.5)	(5.5)	(38.0)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲8.1</b>	<b>▲19.6</b>	<b>▲3.8</b>	<b>▲12.0</b>	<b>1.8</b>
今回調査比	(▲24.7)	(▲32.1)	(▲17.3)	(▲20.0)	(▲32.7)

【参考】前期比の自社業況DI値

業種別 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=532)	▲32.9	▲34.4	▲30.0	▲36.3	▲31.3
H 23.08 (n=500)	▲10.8	▲18.2	▲7.6	▲5.9	▲13.3
H 23.11 (n=497)	3.4	9.3	2.0	▲2.5	5.3
H 24.02 (n=505)	▲2.2	▲0.8	▲5.0	▲2.5	0.9
<b>H 24.05 (n=505)</b>	<b>2.4</b>	<b>2.7</b>	<b>▲0.6</b>	<b>0.0</b>	<b>8.9</b>
前回調査比	(4.6)	(3.5)	(4.4)	(2.5)	(8.0)

## (2) 業種別DI値の動向

### ① 建設業

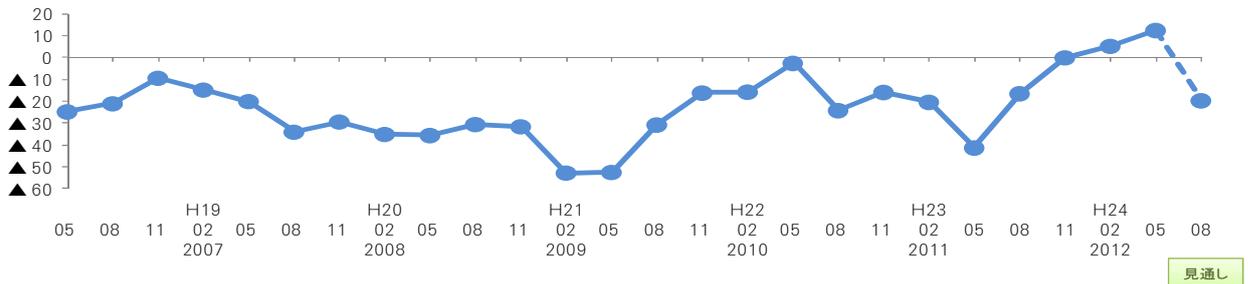
#### 現況判断：上向きつつある

「自社の業況DI値(前年同期比)」は12.5(前回調査比7.2ポイント上昇)と4期連続の回復となり、3期連続でDI値がプラスとなった。また「自社の業況DI値(前期比)」でも、2.7(前回調査比3.5ポイント上昇)と回復しており、企業によってバラツキはあるものの、復興需要などが回復の要因として考えられる。「各種DI値(前年同期比)」でみると、ほとんどの項目において回復がみられた。人員・人手については徐々に不足感がやわらいでいるが、依然として被災地の復旧工事のために重機や労働力が太平洋側に向かっており、人員不足の現状が続いている。

#### 来期の見通し：先行き不安感が先行している

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が一転して▲19.6(今回調査比▲32.1ポイント下落)となり、公共工事の減少傾向、人件費や材料費等の高騰による利益圧迫などを懸念している結果と考えられる。

図表3 建設業「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



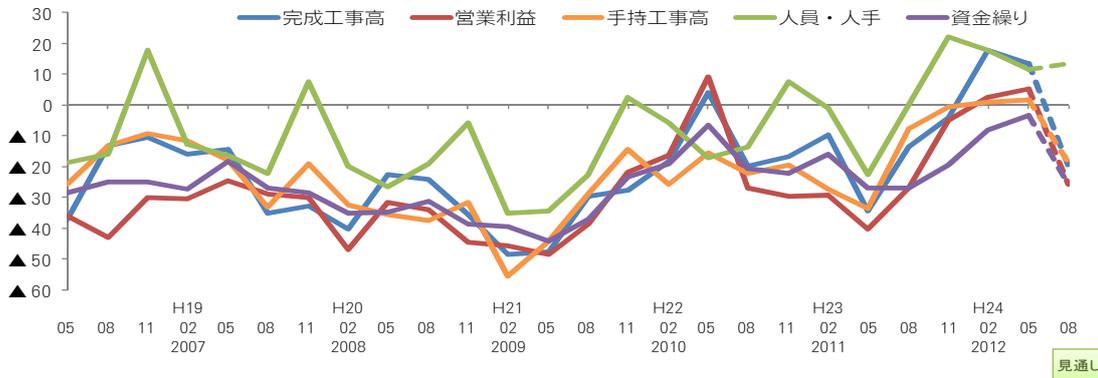
前年同期比の自社業況DI値

建設業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)		完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 23.05 (n=119)	▲ 41.2	(▲ 20.9)	▲ 39.0	▲ 34.5	▲ 40.3	▲ 33.6	▲ 22.7
H 23.08 (n=104)	▲ 16.4	(24.8)	▲ 58.0	▲ 13.4	▲ 27.0	▲ 7.7	0.0
H 23.11 (n=118)	0.0	(16.4)	▲ 33.7	▲ 4.2	▲ 5.1	▲ 0.8	22.0
H 24.02 (n=113)	5.3	(5.3)	▲ 18.6	17.7	2.6	0.9	17.7
<b>H 24.05 (n=112)</b>	<b>12.5</b>	<b>(7.2)</b>	<b>▲ 38.9</b>	<b>13.4</b>	<b>5.4</b>	<b>1.8</b>	<b>11.6</b>
前回調査比	-	-	(▲ 4.3)	(2.8)	(0.9)	(▲ 6.1)	(4.5)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 19.6</b>	-	<b>▲ 19.7</b>	<b>▲ 25.9</b>	<b>▲ 18.7</b>	<b>13.4</b>	<b>▲ 25.9</b>
今回調査比	(▲ 32.1)	-	(▲ 33.1)	(▲ 31.3)	(▲ 20.5)	(1.8)	(▲ 22.4)

【参考】前期比の自社業況DI値

建設業 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)		完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比						
H 23.05 (n=119)	▲ 34.4	(▲ 20.3)	▲ 30.3	▲ 36.2	▲ 34.5	▲ 24.3	▲ 28.6
H 23.08 (n=104)	▲ 18.2	(16.2)	▲ 17.3	▲ 29.8	▲ 9.6	1.0	▲ 27.9
H 23.11 (n=118)	9.3	(27.5)	16.1	▲ 4.3	10.2	24.6	▲ 14.4
H 24.02 (n=113)	▲ 0.8	(▲ 10.1)	12.4	0.0	▲ 5.3	18.6	▲ 16.8
<b>H 24.05 (n=112)</b>	<b>2.7</b>	<b>(3.5)</b>	<b>5.3</b>	<b>▲ 7.2</b>	<b>▲ 2.7</b>	<b>12.5</b>	<b>▲ 10.7</b>
前回調査比	-	-	(▲ 7.1)	(▲ 7.2)	(2.6)	(▲ 6.1)	(6.1)

図表 4 建設業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 民間建築の発注は限られており、価格競争激化に伴い、収益状況は厳しかった。公共建築の発注状況も限定的であった。(村山南)
- 震災の影響により、職人が被災地に流れ、施工の確保が難しかった。(村山南)
- 被災地向けの仕事(仮設住宅等)が順調で売上高前年比増加したが、経費も膨らんだため、予想したほどの利益は上げられなかった。(村山北)
- 震災復旧関連の仕事が半分を占めた一方で地元の公共工事はほとんどしていない。冬期間も被災地での仕事が多かった為、燃料代の増加し、管理面で難儀をした。(最上)
- 日沿道関連の受注が要因で前年比増収増益の見込み。(庄内田川)

Q. 来期の見通しや対策について

- 建設業は一般的に復興需要があると言われており、平成 24 年度後半頃から復興需要が更に本格化してくるのではないかと思います。ただし、価格競争などにより収益率低下も懸念されるので管理面を強化して業務に取り組みたい。(村山北)
- 公共工事受注については、あまり期待が持てない分、仙台方面の受注でカバーしていく方針。ただし、経費の増加等で収益率の低下は避けられない。(庄内田川)
- 公共工事が減少傾向であり、完成工事高で前年比 8 割程の見通し。(庄内田川)
- 日沿道開通に係る大型公共工事の終了や震災復興需要により、日本海側の仕事量は公共、民間工事ともにますます減少していくのではなかと懸念している。(庄内田川)
- 今に始まったことではないが、地元受注だけで増収は望めず、いかに太平洋側で受注できるかが「カギ」となりそうだ。(庄内飽海)

② 製造業

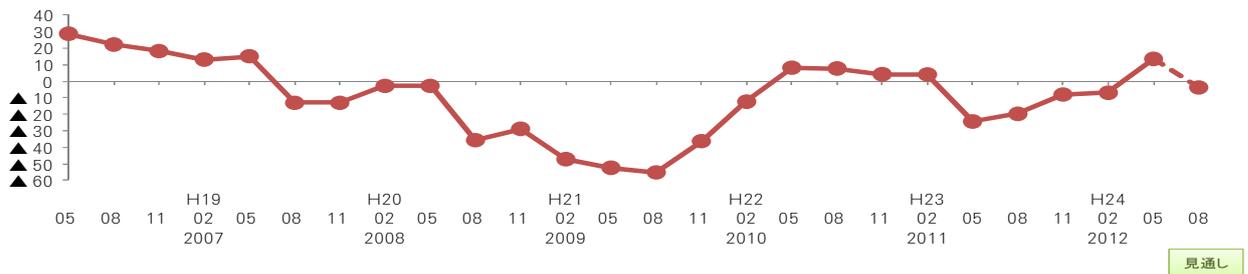
現況判断：上向きつつある

「自社の業況D I 値(前年同期比)」は13.5(前回調査比 20.5ポイント上昇)とD I 値がプラスに転じ、大幅な回復が見られた。また「自社の業況D I 値(前期比)」でみると、▲0.6(前回調査比 4.4ポイント上昇)とD I 値はマイナスながら回復が見られた。「各種D I 値(前年同期比)」でみると、「売上高」19.4(前回調査比 25.4ポイント上昇)、「営業利益」6.4(前回調査比 19.1ポイント上昇)などで回復が見られた一方、「仕入価格」は▲36.1(前回調査比 3.8ポイント下落)となり、原材料等の高騰などが要因として考えられる。

来期の見通し：先行き不安感が先行している

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲3.8(今回調査比 17.3ポイント下落)となり、再び悪化の見込みとなった。一部の企業では底堅く推移する見込みであるものの、全体でみると先行き不透明な円相場などを懸念している結果と考えられる。

図表 5 製造業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



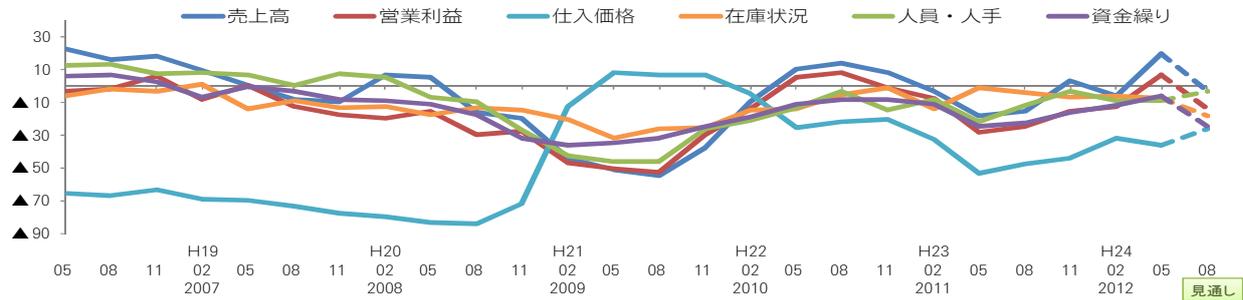
前年同期比の自社業況D I 値

製造業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り	
	前回調査比	前回調査予測							
H 23.05 (n=160)	▲24.4	(▲28.5)	▲12.9	▲18.7	▲28.1	▲53.1	▲1.2	▲21.9	▲25.0
H 23.08 (n=157)	▲19.8	(4.6)	▲23.2	▲15.9	▲24.8	▲47.8	▲3.9	▲12.1	▲23.0
H 23.11 (n=147)	▲8.1	(11.7)	▲6.3	2.7	▲15.7	▲44.2	▲6.8	▲3.4	▲16.4
H 24.02 (n=158)	▲7.0	(1.1)	▲15.6	▲6.3	▲12.7	▲32.3	▲6.4	▲8.9	▲12.0
H 24.05 (n=155)	13.5	(20.5)	▲16.5	19.4	6.4	▲36.1	▲7.7	▲9.0	▲6.5
前回調査比	-	-	-	(25.7)	(19.1)	(▲3.8)	(▲1.3)	(▲0.1)	(5.5)
先行き見通し	▲3.8	-	-	▲3.2	▲14.2	▲26.5	▲18.7	▲3.8	▲24.6
今回調査比	(▲17.3)	-	-	(▲22.6)	(▲20.6)	(9.6)	(▲11.0)	(5.2)	(▲18.1)

【参考】前期比の自社業況D I 値

製造業 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測						
H 23.05 (n=160)	▲30.0	(▲28.5)	▲31.2	▲35.0	▲46.9	▲7.5	▲21.9	▲25.6
H 23.08 (n=157)	▲7.6	(22.4)	▲5.1	▲17.2	▲42.0	▲3.8	▲12.1	▲21.0
H 23.11 (n=147)	2.0	(9.6)	13.6	▲0.7	▲37.4	▲6.8	▲4.0	▲17.0
H 24.02 (n=158)	▲5.0	(▲7.0)	▲1.9	▲12.0	▲24.0	▲6.4	▲7.6	▲13.3
H 24.05 (n=155)	▲0.6	(4.4)	1.3	▲10.9	▲31.0	▲12.3	▲10.4	▲10.4
前回調査比	-	-	(3.2)	(1.1)	(▲7.0)	(▲5.9)	(▲2.8)	(2.9)

図表 6 製造業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 円高や電力不足の影響が売上減少に大きく影響した。また、材料の高騰と反比例して製品価格の下落が続いている。(村山南)
- デジタル家電の極端な減収減益により、赤字は回避できない。(村山北)
- 震災の影響からの回復が顕著に現れ、一定の売上を確保できた。(置賜)
- 対前年増収増益。自動車部品関連部門が好調に推移した。(置賜)
- 震災によって寸断されたサプライチェーンやタイの洪水被害からの回復で売上も回復してきた。ただし、ユーロ圏が落ち着かないと本当の意味での回復とは言えない。(置賜)
- 大型公共工事が要因で、材料等の受注は増加した。(庄内田川)

Q. 来期の見通しや対策について

- 電子部品の入荷が元通りになりつつあり、緩やかではあるが業況は回復に向かうと思う。(村山北)
- 納入先へのコストダウン要求があり、生産数量に大きな変動はないと思われるが、売上高は減少する見込みである。(最上)
- 前期好調に推移した反動もあるが、自動車部品関連部門が計画通り推移するか若干の懸念がある。(置賜)
- 海外企業との価格競争は依然として続くため、コストダウンへの取組みに注力していく。(庄内田川)
- 大型公共工事が終了し、受注量は減少の見込み。(庄内飽海)

③ 卸・小売業

現況判断：上向きつつある

「自社の業況DI値(前年同期比)」は8.0(前回調査比 5.5 ポイント上昇)と4期連続で回復した。また「自社の業況DI値(前期比)」でも、0.0(前回調査比 2.5 ポイント上昇)と回復が見られた。「各種DI値(前年同期比)」は「人員・人手」を除く項目で回復した。その中で、「売上高」は12.8と前回調査比 8.6 ポイントの上昇となった。これは個人消費全般の持ち直しに加え、エコカー補助金制度が追い風となっている自動車関連業界が堅調に推移していることなどが要因として考えられる。

来期の見通し：先行き不安感が先行している

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が一転して▲12.0(今回調査比 20.0 ポイント下落)となり、「各種DI値」もほとんどの項目で悪化の見通しとなった。これは、現状持ち直しの動きが続いている個人消費について、回復ペースの鈍化を懸念している結果と考えられる。

図表 7 卸・小売業「自社業況DI値」(前年同期比)の推移



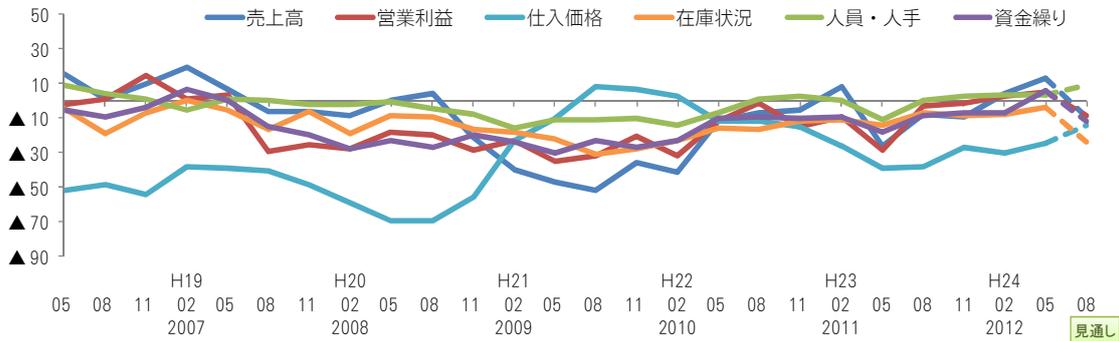
前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金 繰り	
	前回調査比	前回調査予測							
H 23.05 (n=135)	▲ 31.9	(▲ 23.8)	▲ 13.7	▲ 26.0	▲ 28.2	▲ 39.2	▲ 14.1	▲ 11.1	▲ 17.8
H 23.08 (n=119)	▲ 9.2	(22.7)	▲ 34.8	▲ 7.6	▲ 3.3	▲ 37.8	▲ 6.7	0.0	▲ 8.4
H 23.11 (n=119)	▲ 6.7	(2.5)	▲ 14.3	▲ 9.2	▲ 1.6	▲ 26.9	▲ 8.4	2.5	▲ 6.7
H 24.02 (n=120)	2.5	(9.2)	▲ 10.1	4.2	2.5	▲ 30.0	▲ 7.5	3.4	▲ 6.7
H 24.05 (n=125)	8.0	(5.5)	▲ 13.3	12.8	4.8	▲ 24.8	▲ 4.0	3.2	5.6
前回調査比	-	-	-	(8.6)	(2.3)	(5.2)	(3.5)	(▲ 0.2)	(12.3)
先行き見通し	▲ 12.0	(▲ 20.0)	-	▲ 9.6	▲ 8.8	▲ 14.4	▲ 24.0	8.8	▲ 12.0
今回調査比	(▲ 20.0)	-	-	(▲ 22.4)	(▲ 13.6)	(10.4)	(▲ 20.0)	(5.6)	(▲ 17.6)

【参考】前期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比							
H 23.05 (n=135)	▲ 36.3	(▲ 25.8)	▲ 31.2	▲ 34.0	▲ 36.3	▲ 14.8	▲ 10.4	▲ 18.5
H 23.08 (n=119)	▲ 5.9	(30.4)	▲ 10.1	▲ 7.5	▲ 30.3	▲ 2.5	▲ 2.5	▲ 12.6
H 23.11 (n=119)	▲ 2.5	(3.4)	▲ 0.8	▲ 5.9	▲ 29.5	▲ 8.4	0.8	▲ 7.5
H 24.02 (n=120)	▲ 2.5	(0.0)	0.8	▲ 0.8	▲ 25.0	▲ 3.4	3.3	▲ 10.8
H 24.05 (n=125)	0.0	(2.5)	5.6	▲ 2.4	▲ 18.4	▲ 3.2	3.2	▲ 0.8
前回調査比	-	-	(4.8)	(▲ 1.6)	(6.6)	(0.2)	(▲ 0.1)	(10.0)

図表 8 卸・小売業「各種DI値」(前年同期比)の推移



### Q. 今期の業況について

### 業界の声

- 震災復興の需要もあり、対前年比増収増益で推移した。(村山南)
- エコカー補助金の効果が顕著に現れ、対前年比売上高 120%で推移した。(村山北)
- 売上高は前年並みを確保できたが、消費者のエコカーやハイブリット車への買い替えが進んでおり、ガソリン販売量については減少傾向である。(置賜)
- 震災復興需要や大型公共工事の影響から、建築資材販売が好調であった。(庄内田川)
- 対前年でみると、家電商品がエコポイントや地デジ効果の反動で減収減益となった。(庄内飽海)

### Q. 来期の見通しや対策について

- 欧州の不安要素やエコカー需要の一服感等々、補助金終了後の業界動向はかなり不透明である。お客様の囲い込み等の施策を強化していく。(村山南)
- 今後の円相場、欧州の経済状態によっては、輸出関連部門の苦戦が予想される。競争力強化に注力して生き残れる努力をしていきたい。(村山南)
- ガソリンスタンドは依然として薄利多売の状態であり、原価管理や販管費の削減を徹底していかないと厳しいと思っている。(村山北)
- 消費税の増税による駆け込み需要が期待できる一方、消費の冷え込みについても懸念される。(庄内田川)
- 大型公共工事が終了し、建築資材関係の販売減少が懸念される。(庄内飽海)

④ サービス業

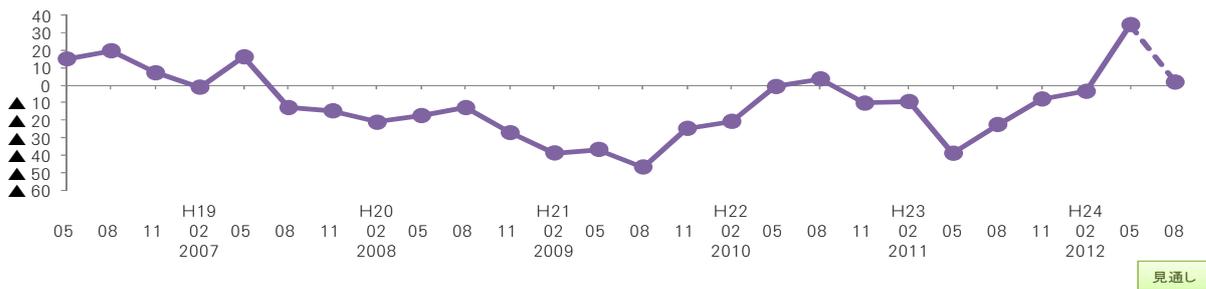
現況判断：上向いている

「自社の業況DI値(前年同期比)」は34.5(前回調査比38.0ポイント上昇)と、DI値がプラスに転じ大幅な回復となった。また「自社の業況DI値(前期比)」でも、8.9(前回調査比8.0ポイント上昇)と回復が見られた。「各種DI値(前年同期比)」もすべての項目でDI値がプラスとなった。特に「売上高」が30.1(前回調査比31.0ポイント上昇)と回復幅が大きく、この要因として飲食業や宿泊業など対個人向けサービス業の業況回復や広告代理店や運輸業など対法人向けサービスについても総じて回復傾向であることなどが考えられる。

来期の見通し：先行き不安感が先行している

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が1.8(今回調査比32.7ポイント下落)とDI値はプラスながら再び悪化の見込みとなっている。この要因として輸送関係企業を中心に燃料価格高騰などを懸念している結果と考えられる。

図表 9 サービス業「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



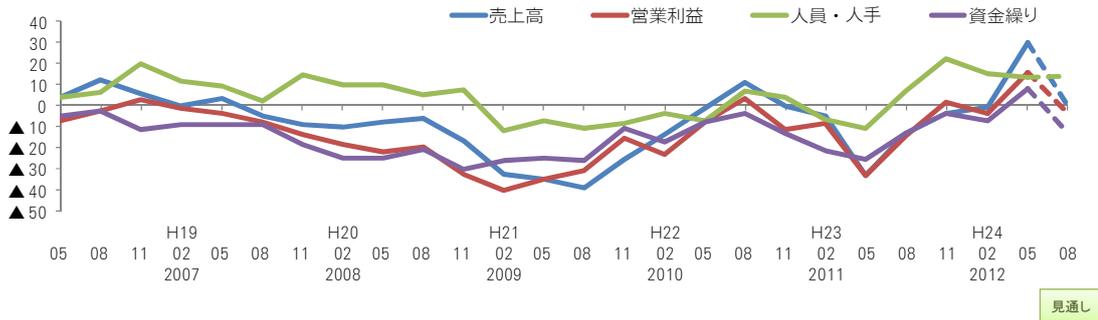
前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 23.05 (n=119)	▲ 38.9	(▲ 29.5)	▲ 24.3	▲ 33.1	▲ 33.1	▲ 11.0	▲ 25.5
H 23.08 (n=120)	▲ 22.5	(16.4)	▲ 39.0	▲ 13.3	▲ 14.1	6.7	▲ 13.4
H 23.11 (n=113)	▲ 7.9	(14.6)	▲ 11.6	▲ 3.6	1.7	22.1	▲ 3.5
H 24.02 (n=114)	▲ 3.5	(4.4)	▲ 7.1	▲ 0.9	▲ 3.5	14.9	▲ 7.1
<b>H 24.05 (n=113)</b>	<b>34.5</b>	<b>(38.0)</b>	<b>▲ 7.8</b>	<b>30.1</b>	<b>15.9</b>	<b>13.3</b>	<b>8.0</b>
前回調査比	-	-	-	(31.0)	(19.4)	(▲ 1.6)	(15.1)
<b>先行き見通し</b>	<b>1.8</b>	-	-	<b>0.0</b>	<b>▲ 3.5</b>	<b>14.2</b>	<b>▲ 13.3</b>
今回調査比	(▲ 32.7)	-	-	(▲ 30.1)	(▲ 19.4)	(0.9)	(▲ 21.3)

【参考】前期比の自社業況DI値

サービス業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)		売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比					
H 23.05 (n=119)	▲ 31.3	(▲ 22.9)	▲ 27.1	▲ 29.6	▲ 9.3	▲ 26.3
H 23.08 (n=120)	▲ 13.3	(18.0)	▲ 4.2	▲ 3.4	11.6	▲ 9.2
H 23.11 (n=113)	5.3	(18.6)	15.9	8.0	21.3	▲ 8.0
H 24.02 (n=114)	0.9	(▲ 4.4)	▲ 2.6	▲ 11.4	15.0	▲ 14.0
<b>H 24.05 (n=113)</b>	<b>8.9</b>	<b>(8.0)</b>	<b>16.0</b>	<b>7.0</b>	<b>10.7</b>	<b>1.7</b>
前回調査比	-	-	(18.6)	(18.4)	(▲ 4.3)	(15.7)

図表 10 サービス業「各種D I 値」(前年同期比)の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 全体的に悪くはなかったが、昨年7月の地デジ移行後、家電関係の荷動きが悪くなっており、対前年比減収要因となった。(村山南)
- 県内の雇用状況の改善や仙台圏での求人等の増加により、求人募集広告が改善傾向である。(村山南)
- 震災復興に伴い廃棄物処理業界は特需的な動きがあり、対前年比増収増益を見込む。(最上)
- 1年前の東日本大震災の風評被害は収まりつつあると感じている。昨年の旅行の手控え感の反動で、お客様の動きは活発になっていると思う。(置賜)
- 太平洋側の港湾が復興して、酒田港の取扱貨物が減少傾向である。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 燃料費(軽油)の高騰が懸念されるが、各企業の荷動き状況は悪くはなく、売上は前年比プラスを見込む。(村山南)
- 求人広告回復により全体的に安定しつつあるが、スマートフォン・ネット関連のデジタル化促進に伴い、地方の消費者の情報収集手段も変わりつつある。ターゲットを細分化する必要性が高まりそうだ。(村山南)
- 廃棄物処理業界の特需的な動きはまだ続くと思われる。また県内へのガレキ受入が、県民にどれだけ理解していただけるかによって、動向が変わってくるのではないかと思う。(最上)
- 短期的にみると、回復傾向にあると思うが、国内外の諸情勢に不安要素もあり、安心はできない。(置賜)
- 太平洋側の復興が更に本格化すると考えられ、売上維持対策を検討していく。(庄内飽海)

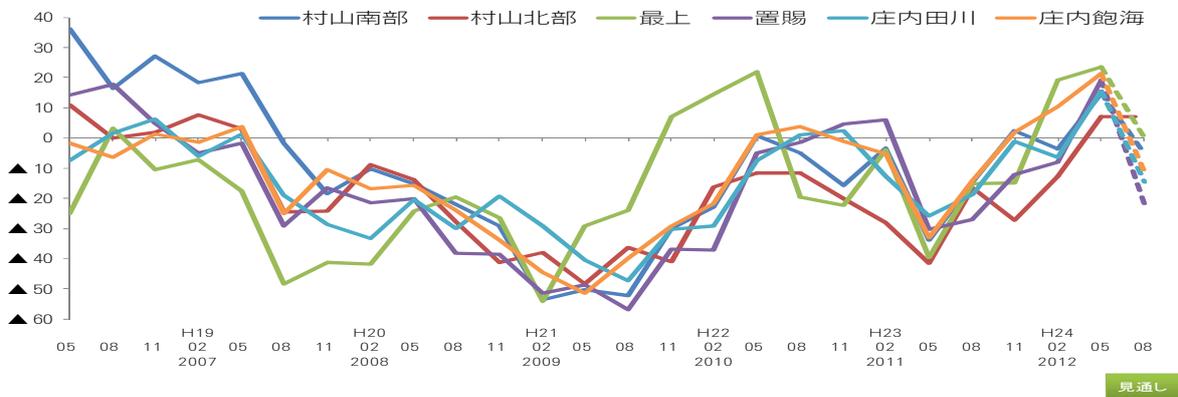
### 3. 地域別の動向

#### (1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、村山南部で 14.7(前回調査比 18.4 ポイント上昇)、村山北部で 7.2(前回調査比 19.8 ポイント上昇)、最上で 23.5(前回調査比 4.3 ポイント上昇)、置賜で 19.1(前回調査比 27.0 ポイント上昇)、庄内田川で 15.6(前回調査比 21.9 ポイント上昇)、庄内飽海で 21.4(前回調査比 10.9 ポイント上昇)となり、すべての地域で回復している結果となった。また「自社の業況DI値(前期比)」でみると、置賜で 17.7(前回調査比 22.5 ポイント上昇)と大幅に回復している。

業況の先行き見通しをみると、「自社の業況DI値」は▲8.1(今回調査比 24.7 ポイント下落)と一転して悪化の見込みとなり、地域別でも村山北部を除く地域で悪化の見込みとなっている。

図表 3 地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H 23.05 (n=532)	▲ 33.3	▲ 33.8	▲ 41.5	▲ 39.6	▲ 30.4	▲ 26.0	▲ 33.0
H 23.08 (n=500)	▲ 17.2	▲ 14.6	▲ 16.4	▲ 15.2	▲ 26.9	▲ 18.7	▲ 14.1
H 23.11 (n=497)	▲ 5.8	2.3	▲ 27.2	▲ 14.8	▲ 12.2	▲ 1.1	2.0
H 24.02 (n=505)	▲ 1.2	▲ 3.7	▲ 12.6	19.2	▲ 7.9	▲ 6.3	10.5
<b>H 24.05 (n=505)</b>	<b>16.6</b>	<b>14.7</b>	<b>7.2</b>	<b>23.5</b>	<b>19.1</b>	<b>15.6</b>	<b>21.4</b>
前回調査比	(17.8)	(18.4)	(19.8)	(4.3)	(27.0)	(21.9)	(10.9)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 8.1</b>	<b>▲ 5.4</b>	<b>7.2</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 22.1</b>	<b>▲ 14.5</b>	<b>▲ 11.2</b>
今回調査比	(▲ 24.7)	(▲ 20.1)	(0.0)	(▲ 23.5)	(▲ 41.2)	(▲ 30.1)	(▲ 32.6)

【参考】前期比の自社業況DI値

地域別 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H 23.05 (n=532)	▲ 32.9	▲ 35.4	▲ 47.7	▲ 32.1	▲ 34.2	▲ 27.1	▲ 25.5
H 23.08 (n=500)	▲ 10.8	▲ 3.8	▲ 22.4	▲ 2.2	▲ 20.9	▲ 14.3	▲ 6.0
H 23.11 (n=497)	3.4	11.6	▲ 19.7	9.3	▲ 10.5	11.0	6.0
H 24.02 (n=505)	▲ 2.2	3.8	▲ 14.1	4.3	▲ 4.8	▲ 4.2	▲ 1.0
<b>H 24.05 (n=505)</b>	<b>2.4</b>	<b>▲ 3.1</b>	<b>4.4</b>	<b>3.9</b>	<b>17.7</b>	<b>▲ 5.6</b>	<b>4.1</b>
前回調査比	(4.6)	(▲ 6.9)	(18.5)	(▲ 0.4)	(22.5)	(▲ 1.4)	(5.1)

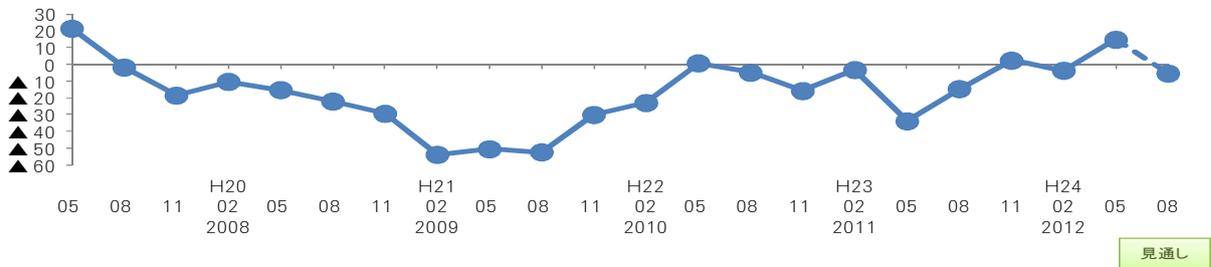
## (2) 地域別DI値の動向

### ① 村山南部

「自社の業況DI値(前年同期比)」は14.7(前回調査比18.4ポイント上昇)とDI値がプラスに転じ、回復となった。一方、「自社の業況DI値(前期比)」でみると、▲3.1(前回調査比6.9ポイント下落)と悪化となっている。業種別にみるとサービス業の「自社の業況DI値(前年同期比)」が32.5(前回調査比32.5ポイント上昇)と大きく回復している一方、「自社の業況DI値(前期比)」でみると▲7.5(前回調査比20.9ポイント下落)となり、季節要因や個人消費の回復の鈍化などが考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲5.4(今回調査比20.1ポイント下落)となり、一転して悪化する見込みとなり、特に卸・小売業やサービス業の悪化幅が大きい結果となっている。

図表4 村山南部「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表5 村山南部「業種別・自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

村山南部 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			業種別/自社業況(前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=133)	▲33.8	(▲30.5)	▲13.3	▲10.5	▲45.1	▲34.1	▲35.7
H 23.08 (n=130)	▲14.6	(19.2)	▲36.1	▲27.8	▲30.3	5.4	▲14.3
H 23.11 (n=129)	2.3	(16.9)	▲3.1	▲20.0	3.7	9.1	5.3
H 24.02 (n=134)	▲3.7	(▲6.0)	▲10.9	▲10.0	▲17.9	9.7	▲4.5
<b>H 24.05 (n=129)</b>	<b>14.7</b>	<b>(18.4)</b>	<b>▲14.9</b>	<b>0.0</b>	<b>7.1</b>	<b>10.0</b>	<b>32.5</b>
前回調査比	-	-	-	(10.0)	(25.0)	(0.3)	(37.0)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲5.4</b>	-	-	<b>▲4.8</b>	<b>▲3.5</b>	<b>▲15.0</b>	<b>2.5</b>
今回調査比	(▲20.1)	-	-	(▲4.8)	(▲10.6)	(▲25.0)	(▲30.0)

【参考】前期比の自社業況DI値

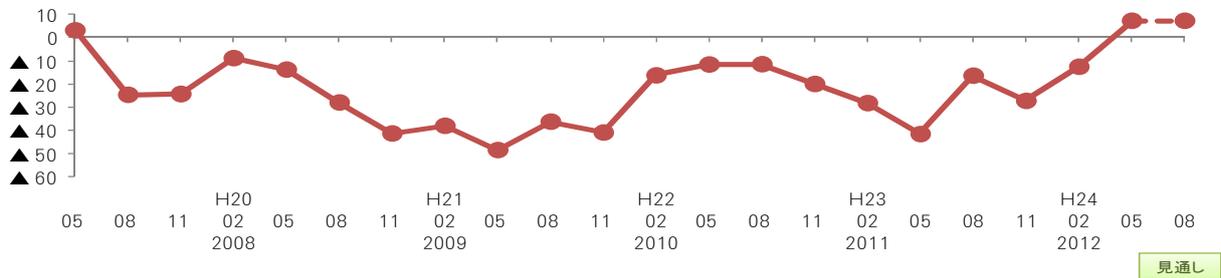
村山南部 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)		業種別/自社業況(前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=133)	▲35.4	(▲41.2)	▲5.3	▲54.8	▲36.6	▲33.3
H 23.08 (n=130)	▲3.8	(31.6)	▲22.2	3.1	5.4	▲9.5
H 23.11 (n=129)	11.6	(15.4)	10.0	11.1	6.8	18.4
H 24.02 (n=134)	3.8	(▲7.8)	▲10.0	0.0	2.4	13.4
<b>H 24.05 (n=129)</b>	<b>▲3.1</b>	<b>(▲6.9)</b>	<b>▲14.3</b>	<b>0.0</b>	<b>5.0</b>	<b>▲7.5</b>
前回調査比	-	-	(▲4.3)	(0.0)	(2.6)	(▲20.9)

② 村山北部

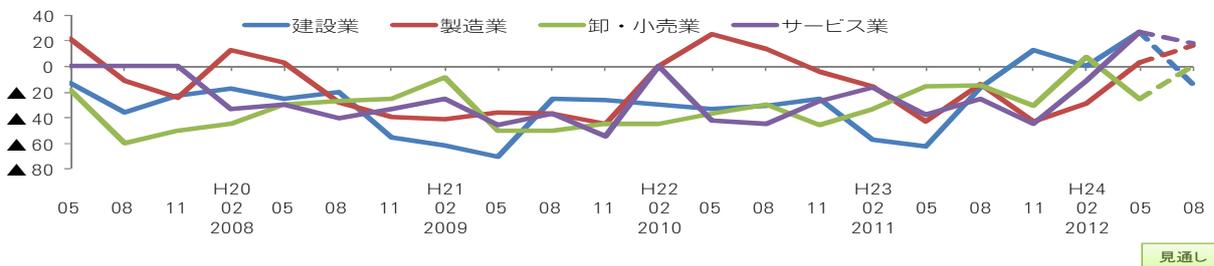
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は7.2(前回調査比 19.8 ポイント上昇)とD I 値がプラスに転じ、大幅に回復している。また「自社の業況D I 値(前期比)」でみると3.9(前回調査比 0.4 ポイント下落)とほぼ横ばいで推移した。業種別に「自社の業況D I 値(前年同期比)」をみると、建設業 26.6(前回調査比 26.6 ポイント上昇)、製造業 3.2(前回調査比 32.2 ポイント上昇)、サービス業 27.3(前回調査比 38.4 ポイント上昇)と大幅に回復した一方、卸・小売業▲25.0(前回調査比▲32.7 ポイント下落)となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が7.2(今回調査比±0.0)とD I 値はプラスの見込みである。業種別では建設業が▲13.4(今回調査比▲40.0)と大幅に悪化する見込みとなっている。これは、公共工事の減少を懸念している結果が反映しているものと考えられる。

図表 6 村山北部「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 7 村山北部「業種別・自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

村山北部 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			業種別/自社業況 (前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=065)	▲41.5	(▲13.3)	▲35.9	▲62.5	▲42.8	▲15.4	▲37.5
H 23.08 (n=067)	▲16.4	(25.1)	▲41.5	▲16.6	▲13.8	▲14.3	▲25.0
H 23.11 (n=066)	▲27.2	(▲10.8)	▲31.3	12.5	▲42.8	▲30.8	▲44.4
H 24.02 (n=071)	▲12.6	(14.6)	▲19.7	0.0	▲29.0	7.7	▲11.1
<b>H 24.05 (n=69)</b>	<b>7.2</b>	<b>(19.8)</b>	<b>▲21.1</b>	<b>26.6</b>	<b>3.2</b>	<b>▲25.0</b>	<b>27.3</b>
前回調査比	-	-	-	(26.6)	(32.2)	(▲32.7)	(38.4)
<b>先行き見通し</b>	<b>7.2</b>	-	-	<b>▲13.4</b>	<b>16.1</b>	<b>0.0</b>	<b>18.2</b>
今回調査比	(0.0)	-	-	(▲40.0)	(12.9)	(25.0)	(▲9.1)

【参考】前期比の自社業況D I 値

村山北部 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)		業種別/自社業況 (前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=065)	▲47.7	(▲22.7)	▲62.5	▲53.6	▲30.8	▲25.0
H 23.08 (n=067)	▲22.4	(25.3)	▲25.0	▲27.6	▲7.2	▲25.0
H 23.11 (n=066)	▲19.7	(2.7)	0.0	▲21.4	▲15.4	▲55.6
H 24.02 (n=071)	▲14.1	(5.6)	▲5.6	▲22.6	0.0	▲22.2
<b>H 24.05 (n=69)</b>	<b>4.4</b>	<b>(18.5)</b>	<b>40.0</b>	<b>▲9.7</b>	<b>▲33.4</b>	<b>36.4</b>
前回調査比	-	-	(45.6)	(12.9)	(▲33.4)	(58.6)

### ③ 最上

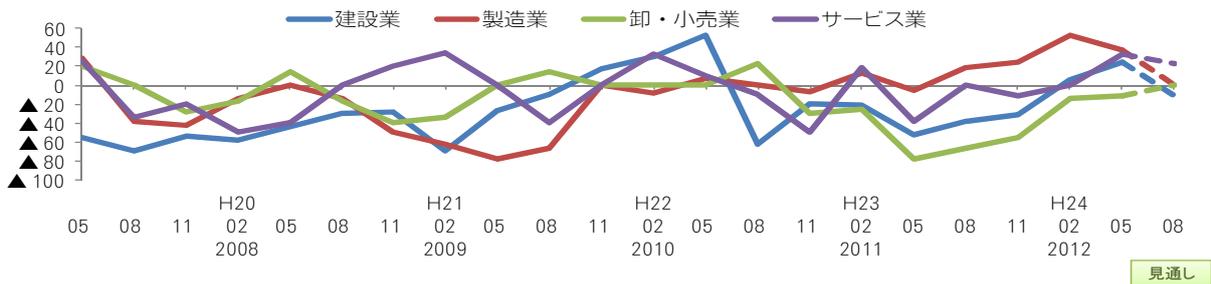
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は23.5(前回調査比4.3ポイント上昇)と回復した。また「自社の業況D I 値(前期比)」でみると、3.9(前回調査比0.4ポイント下落)とほぼ横ばいで推移した。業種別に「自社の業況D I 値(前年同期比)」でみると、サービス業が、33.3(前回調査比33.3ポイント上昇)と大きく回復し、「自社の業況D I 値(前期比)」でみても、22.2(前回調査比62.2ポイント上昇)と回復度合いが高く、個人消費の持ち直し基調などが考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が0.0(今回調査比23.5ポイント下落)と一転して悪化する見込みとなっている。特に建設業と製造業の悪化幅が大きい見込みとなっている。

図表 8 最上「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 9 最上「業種別・自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

最上 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			業種別/自社業況(前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=053)	▲ 39.6	(▲ 35.8)	▲ 30.2	▲ 52.6	▲ 5.9	▲ 77.8	▲ 37.5
H 23.08 (n=046)	▲ 15.2	(24.4)	▲ 22.6	▲ 37.5	18.8	▲ 66.7	0.0
H 23.11 (n=054)	▲ 14.8	(0.4)	▲ 10.9	▲ 31.6	23.6	▲ 55.6	▲ 11.1
H 24.02 (n=047)	19.2	(34.0)	1.9	5.6	52.9	▲ 14.3	0.0
H 24.05 (n=51)	<b>23.5</b>	<b>(4.3)</b>	<b>▲ 23.4</b>	<b>23.5</b>	<b>37.5</b>	<b>▲ 11.1</b>	<b>33.3</b>
前回調査比	-	-	-	(17.9)	(▲ 15.4)	(3.2)	(33.3)
先行き見通し	<b>0.0</b>	-	-	<b>▲ 11.7</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>22.2</b>
今回調査比	(▲ 23.5)	-	-	(▲ 35.2)	(▲ 37.5)	(11.1)	(▲ 11.1)

【参考】前期比の自社業況D I 値

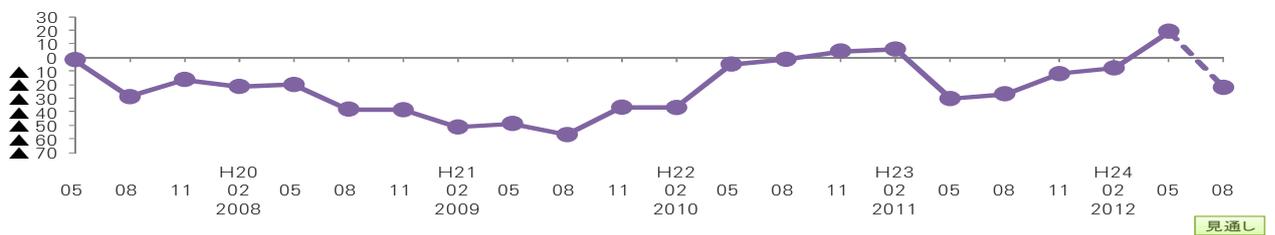
最上 調査時(サンプル数)	自社業況(前期比)		業種別/自社業況(前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=053)	▲ 32.1	(▲ 22.7)	▲ 36.9	▲ 5.9	▲ 77.8	▲ 25.0
H 23.08 (n=046)	▲ 2.2	(29.9)	▲ 37.5	18.7	0.0	25.0
H 23.11 (n=054)	9.3	(11.5)	0.0	35.3	▲ 22.2	11.1
H 24.02 (n=047)	4.3	(▲ 5.0)	5.6	23.5	▲ 14.3	▲ 40.0
H 24.05 (n=51)	<b>3.9</b>	<b>(▲ 0.4)</b>	<b>11.8</b>	<b>6.2</b>	<b>▲ 33.3</b>	<b>22.2</b>
前回調査比	-	-	(6.2)	(▲ 17.3)	(▲ 19.0)	(62.2)

④ 置 賜

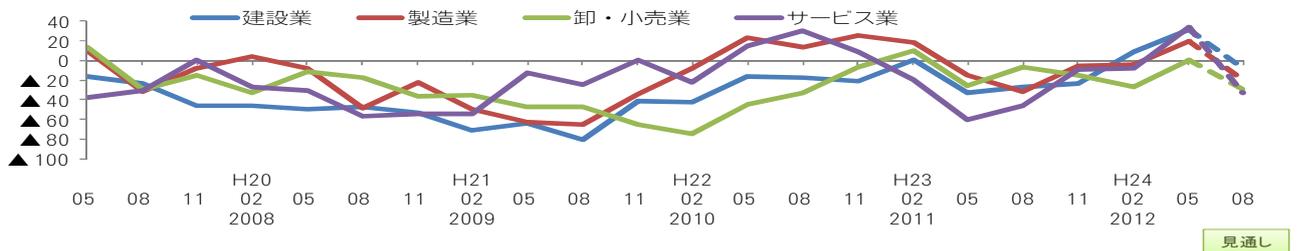
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は 19.1(前回調査比 27.0 ポイント上昇)とD I 値がプラスに転じ大幅な回復となった。また「自社の業況D I 値(前期比)」でも、17.7(前回調査比 22.5 ポイント上昇)と大きく回復している。業種別に「自社の業況D I 値(前年同期比)」と「自社の業況D I 値(前期比)」でも、すべての業種で大幅な回復となり、特にサービス業の回復度合いが大きい。これは、個人消費の持ち直しや観光客の回復などが要因として考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲22.1(今回調査比 41.2 ポイント下落)と再び悪化する見込み。業種別でも、すべての業種で悪化の見込みとなっている。

図表 10 置賜「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 11 置賜「業種別・自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

置 賜 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			業種別/自社業況 (前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=079)	▲30.4	(▲36.5)	▲18.4	▲33.4	▲15.4	▲26.1	▲60.0
H 23.08 (n=067)	▲26.9	(3.5)	▲43.0	▲26.7	▲32.0	▲6.3	▲45.4
H 23.11 (n=057)	▲12.2	(14.7)	▲17.9	▲23.1	▲5.0	▲15.4	▲9.1
H 24.02 (n=063)	▲7.9	(4.3)	▲21.0	8.3	▲4.2	▲26.7	▲8.4
<b>H 24.05 (n=68)</b>	<b>19.1</b>	<b>(27.0)</b>	<b>▲19.0</b>	<b>30.8</b>	<b>19.2</b>	<b>0.0</b>	<b>33.3</b>
前回調査比	-	-	-	(22.5)	(23.4)	(26.7)	(41.7)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲22.1</b>	-	-	<b>▲7.7</b>	<b>▲19.3</b>	<b>▲29.4</b>	<b>▲33.3</b>
今回調査比	(▲41.2)	-	-	(▲38.5)	(▲38.5)	(▲29.4)	(▲66.6)

【参考】前期比の自社業況D I 値

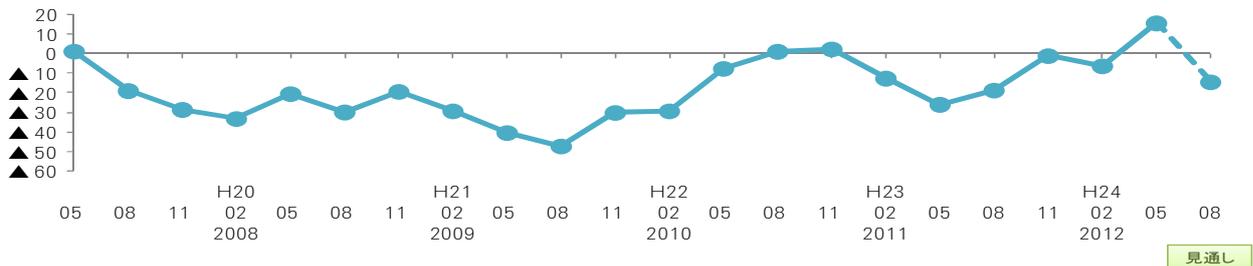
置 賜 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)		業種別/自社業況 (前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=079)	▲34.2	(▲25.0)	▲46.7	▲19.3	▲30.5	▲53.4
H 23.08 (n=067)	▲20.9	(13.3)	▲20.0	▲20.0	▲12.5	▲36.4
H 23.11 (n=057)	▲10.5	(10.4)	▲15.4	5.0	▲15.4	▲27.2
H 24.02 (n=063)	▲4.8	(5.7)	8.3	▲4.2	▲20.0	0.0
<b>H 24.05 (n=68)</b>	<b>17.7</b>	<b>(22.5)</b>	<b>15.4</b>	<b>15.4</b>	<b>11.8</b>	<b>33.3</b>
前回調査比	-	-	(7.1)	(19.6)	(31.8)	(33.3)

⑤ 庄内田川

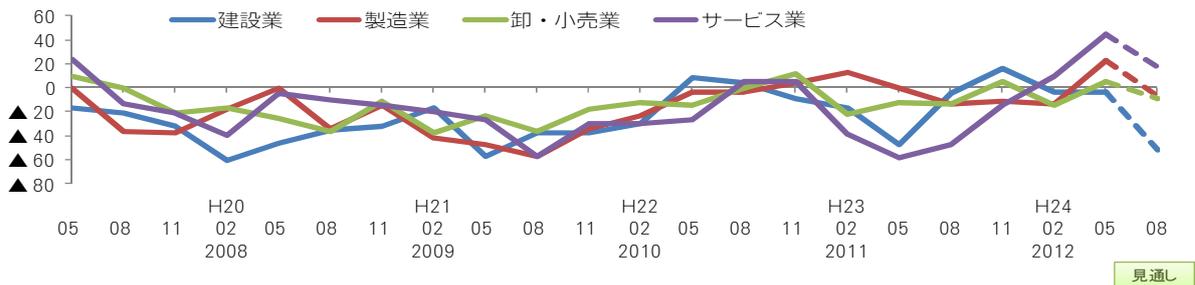
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は15.6(前回調査比21.9ポイント上昇)とD I 値がプラスに転じ大幅な回復となった一方で、「自社の業況D I 値(前期比)」でみると、▲5.6(前回調査比 1.4 ポイント下落)と小幅ながら悪化した。業種別にみると、建設業で「自社の業況D I 値(前年同期比)」と「自社の業況D I 値(前期比)」がともに悪化している。これは企業によってバラツキはあるものの、大型公共工事終了後の反動減が反映された結果と考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲14.5(今回調査比 30.1 ポイント下落)と悪化の見込みとなっている。業種別にみても、すべての業種で悪化の見込みとなっている。

図表 12 庄内田川「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 13 庄内田川「業種別・自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

庄内田川 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			業種別/ 自社業況 (前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=096)	▲ 26.0	(▲ 13.4)	▲ 22.1	▲ 48.0	0.0	▲ 12.5	▲ 58.8
H 23.08 (n=091)	▲ 18.7	(7.3)	▲ 14.7	▲ 4.8	▲ 13.8	▲ 13.6	▲ 47.4
H 23.11 (n=091)	▲ 1.1	(17.6)	▲ 19.8	16.0	▲ 11.1	5.2	▲ 15.0
H 24.02 (n=095)	▲ 6.3	(▲ 5.2)	▲ 7.7	▲ 4.1	▲ 13.3	▲ 15.0	9.5
<b>H 24.05 (n=90)</b>	<b>15.6</b>	<b>(21.9)</b>	<b>▲ 15.8</b>	<b>▲ 4.3</b>	<b>22.2</b>	<b>4.6</b>	<b>44.5</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 0.2)	(35.5)	(19.6)	(35.0)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 14.5</b>	-	-	<b>▲ 52.2</b>	<b>▲ 7.4</b>	<b>▲ 9.1</b>	<b>16.6</b>
今回調査比	(▲ 30.1)	-	-	(▲ 47.9)	(▲ 29.6)	(▲ 13.7)	(▲ 27.9)

【参考】前期比の自社業況D I 値

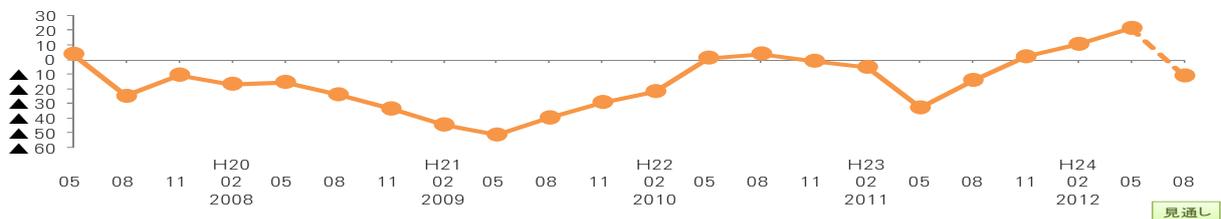
庄内田川 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)		業種別/ 自社業況 (前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=096)	▲ 27.1	(▲ 16.6)	▲ 32.0	▲ 6.7	▲ 25.0	▲ 58.8
H 23.08 (n=091)	▲ 14.3	(12.8)	▲ 23.8	▲ 6.9	▲ 9.1	▲ 21.0
H 23.11 (n=091)	11.0	(25.3)	24.0	▲ 3.7	5.3	20.0
H 24.02 (n=095)	▲ 4.2	(▲ 15.2)	0.0	▲ 3.3	▲ 20.0	4.7
<b>H 24.05 (n=90)</b>	<b>▲ 5.6</b>	<b>(▲ 1.4)</b>	<b>▲ 13.1</b>	<b>3.7</b>	<b>▲ 13.6</b>	<b>0.0</b>
前回調査比	-	-	(▲ 13.1)	(7.0)	(6.4)	(▲ 4.7)

## ⑥ 庄内飽海

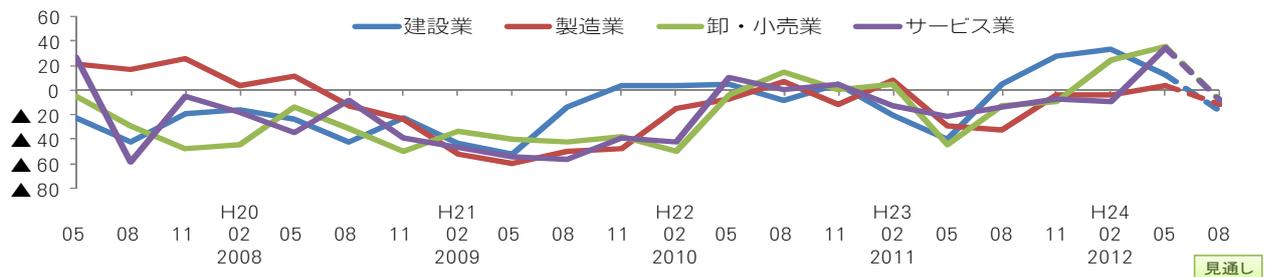
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は21.4(前回調査比 10.9 ポイント上昇)となり3期連続でプラスとなった。また「自社の業況D I 値(前期比)」でも4.1(前回調査比5.1 ポイント上昇)と回復した。業種別に「自社の業況D I 値(前年同期比)」をみると、サービス業が34.8(前回調査比43.9 ポイント上昇)と大幅に回復した一方で、建設業が13.0(前回調査比 20.3 ポイント下落)とD I 値はプラスながら悪化となった。これも庄内田川地区同様、企業によってバラツキはあるものの、大型公共工事終了後の反動減が反映された結果と考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲11.2(今回調査比32.6ポイント下落)と一転して悪化の見込みとなっている。業種別でも、すべての業種で悪化の見込みとなっている。

図表 14 庄内飽海「自社の業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 15 庄内飽海「業種別・自社の業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

庄内飽海 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			業種別/自社業況 (前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=106)	▲ 33.0	(▲ 27.7)	▲ 19.1	▲ 40.0	▲ 28.6	▲ 44.0	▲ 21.4
H 23.08 (n=099)	▲ 14.1	(18.9)	▲ 36.7	4.6	▲ 32.0	▲ 12.5	▲ 14.3
H 23.11 (n=100)	2.0	(16.1)	▲ 16.1	28.0	▲ 3.6	▲ 9.5	▲ 7.7
H 24.02 (n=095)	10.5	(8.5)	▲ 20.0	33.3	▲ 3.6	25.0	▲ 9.1
<b>H 24.05 (n=98)</b>	<b>21.4</b>	<b>(10.9)</b>	<b>▲ 23.2</b>	<b>13.0</b>	<b>3.7</b>	<b>36.0</b>	<b>34.8</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 20.3)	(7.3)	(11.0)	(43.9)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 11.2</b>	-	-	<b>▲ 17.4</b>	<b>▲ 11.1</b>	<b>▲ 8.0</b>	<b>▲ 8.7</b>
今回調査比	(▲ 32.6)	-	-	(▲ 30.4)	(▲ 14.8)	(▲ 44.0)	(▲ 43.5)

【参考】前期比の自社業況D I 値

庄内飽海 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前期比)		業種別/自社業況 (前期比)			
	全業種	前回調査比	建設	製造	卸・小売	サービス
H 23.05 (n=106)	▲ 25.5	(▲ 22.3)	▲ 32.0	▲ 28.6	▲ 40.0	▲ 3.5
H 23.08 (n=099)	▲ 6.0	(19.5)	9.1	▲ 4.0	▲ 16.7	▲ 10.7
H 23.11 (n=100)	6.0	(12.0)	20.0	0.0	▲ 4.8	7.7
H 24.02 (n=095)	▲ 1.0	(▲ 7.0)	0.0	▲ 10.7	16.7	▲ 9.1
<b>H 24.05 (n=98)</b>	<b>4.1</b>	<b>(5.1)</b>	<b>▲ 4.3</b>	<b>▲ 14.8</b>	<b>24.0</b>	<b>13.0</b>
前回調査比	-	-	(▲ 4.3)	(▲ 4.1)	(7.3)	(22.1)

## II. 景気の天気予報図

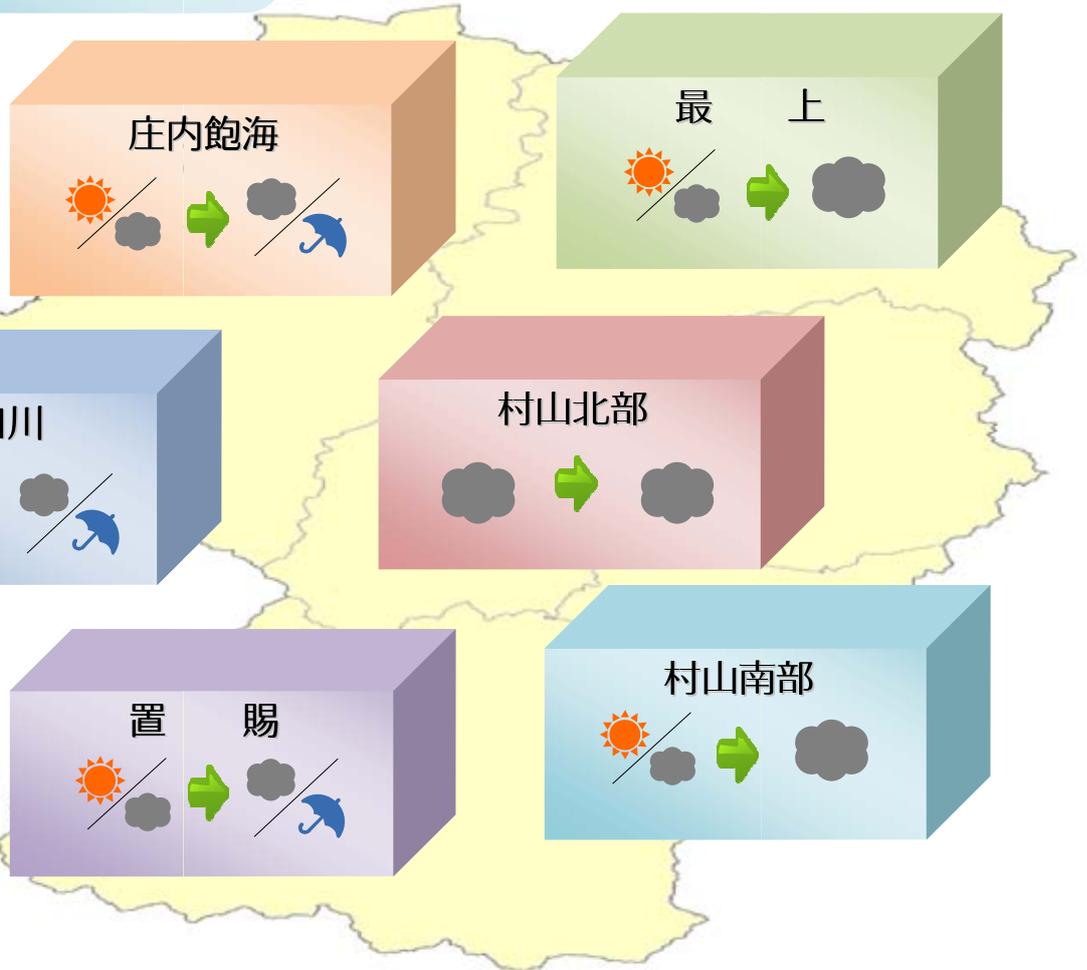
【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$

山形県

今期の業況 →

来期の見通し



今期の概況

来期の見通し

	山形県	村山 南部	村山 北部	最上	置賜	庄内 田川	庄内 飽海
全業種							
繊維業							
鉄鋼業							
卸・小売業							
リ・ビネス							

→

	山形県	村山 南部	村山 北部	最上	置賜	庄内 田川	庄内 飽海
全業種							
繊維業							
鉄鋼業							
卸・小売業							
リ・ビネス							

### III. 特別調査

#### 1. 夏季ボーナスについて

##### (1) 支給予定動向

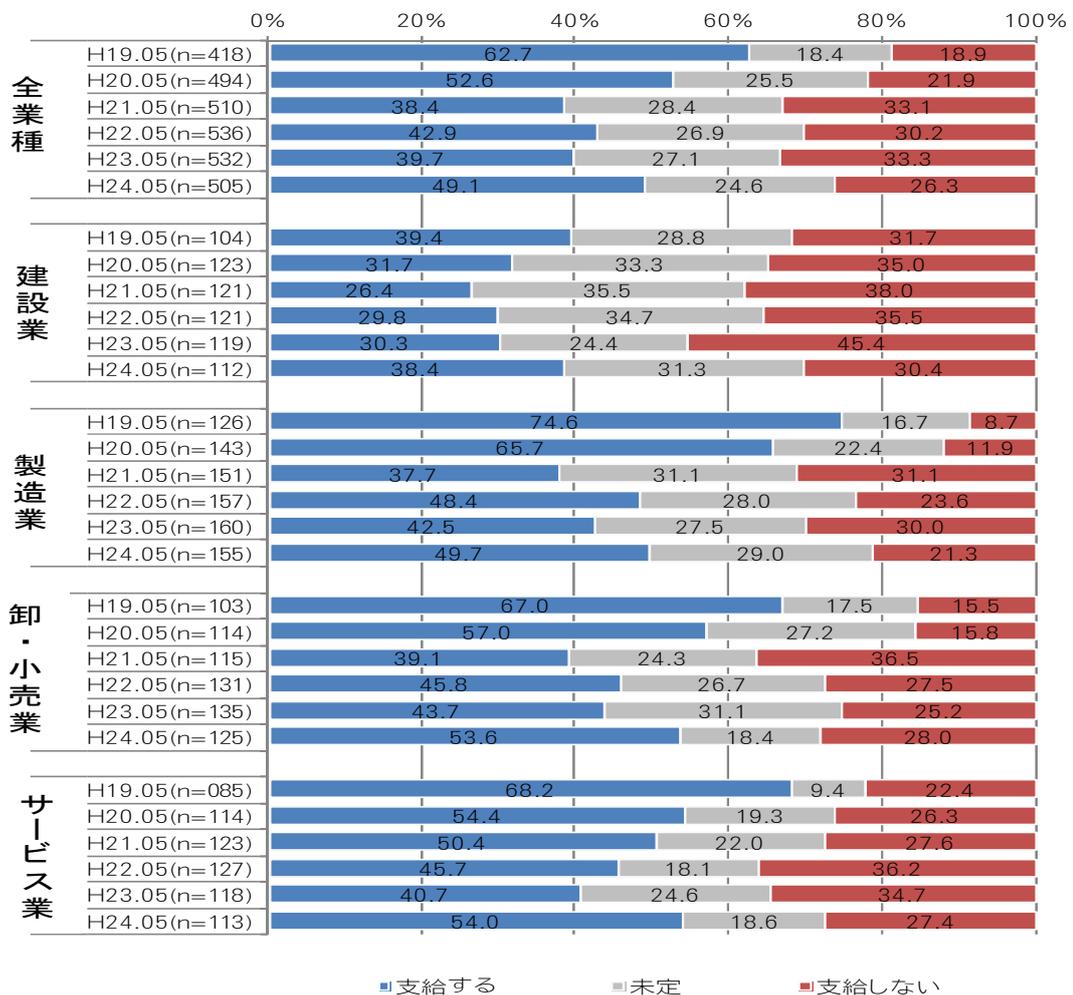
支給予定企業は 49.1%、昨年より増加

夏季ボーナスの支給動向について尋ねたところ、県内企業の 49.1%が「支給する」と回答した。「支給しない」と回答した企業は 26.3%であった【図表 25】。昨年(H23. 05)の調査時点と比較すると、「支給する」企業の割合は9.4ポイント増加する一方で、「支給しない」企業の割合は7.0ポイント減少した。

また、業種別では、サービス業は「支給する」と回答した企業が 54.0%と他業種と比べ最も高い割合である一方、建設業は「支給する」と回答した企業が 38.4%と他業種と比べ最も低い割合であった。

総じて、昨年と比較すると、夏季ボーナス支給予定動向は回復傾向であるものの、H20 年 9 月に米国の投資銀行「リーマンブラザーズ」が破綻し、世界同時不況(リーマンショック)が本格化した以前の支給水準までは回復していない状況である。

図表 25 業種別「夏季ボーナスの支給予定動向」の推移



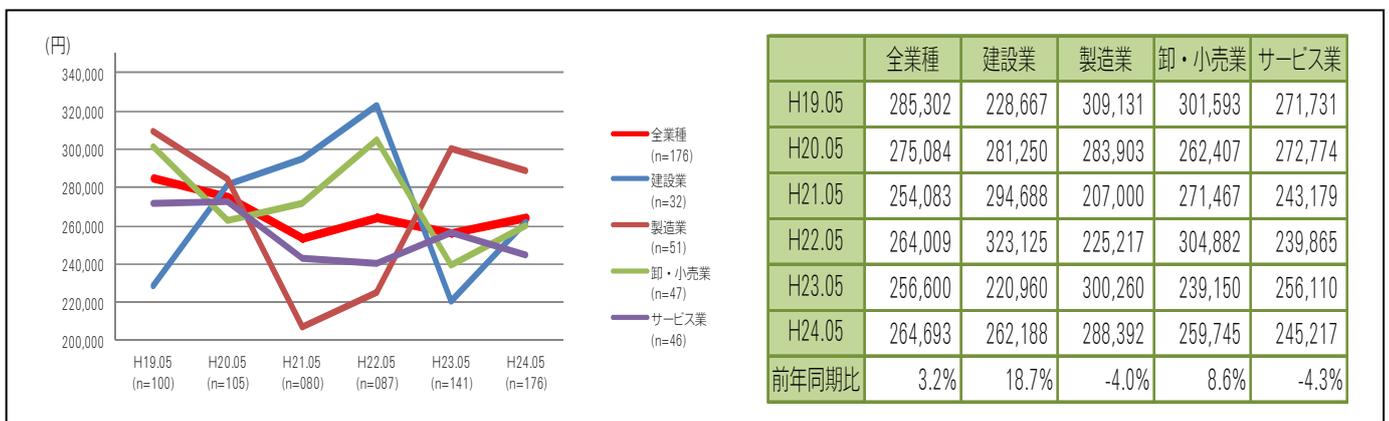
(2) 支給予定額について

支給予定額は増加傾向

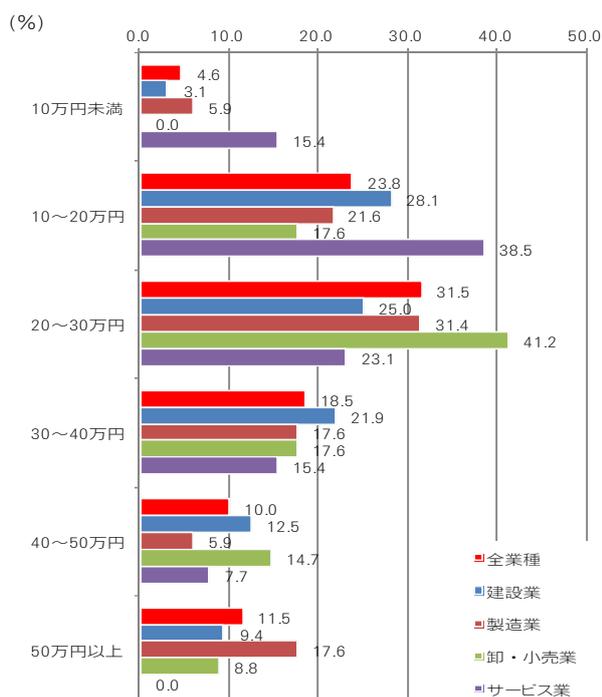
夏季ボーナスの支給予定額について尋ねたところ、全業種平均(176社)で26.5万円となり、昨年(H23.05)の調査時点と比較すると3.2ポイントの増加となった。

業種別で見ると製造業の平均支給予定額が28.8万円と最も高い一方、サービス業の平均支給予定額が24.5万円と最も低い【図表26】。また【図表27】で見られる通り、全業種で「10万円～30万円」に集中している。「夏季ボーナスの平均支給予定月数」についてみると、製造業と卸小売業は「1.0～1.5ヵ月」に集中している一方で、建設業とサービス業ではバラツキが見られる【図表28】。

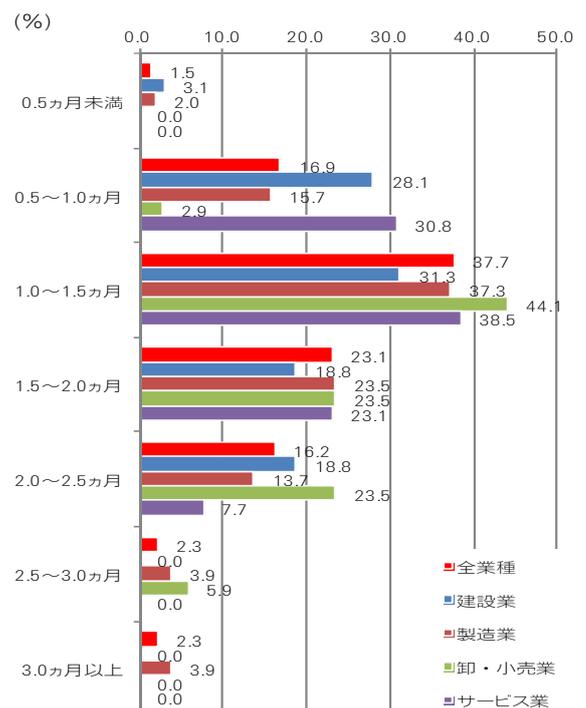
図表 26 業種別「夏季ボーナスの平均支給予定額」の推移



図表 27 業種別「夏季ボーナスの平均支給予定額」



図表 28 業種別「夏季ボーナスの平均支給予定月数」



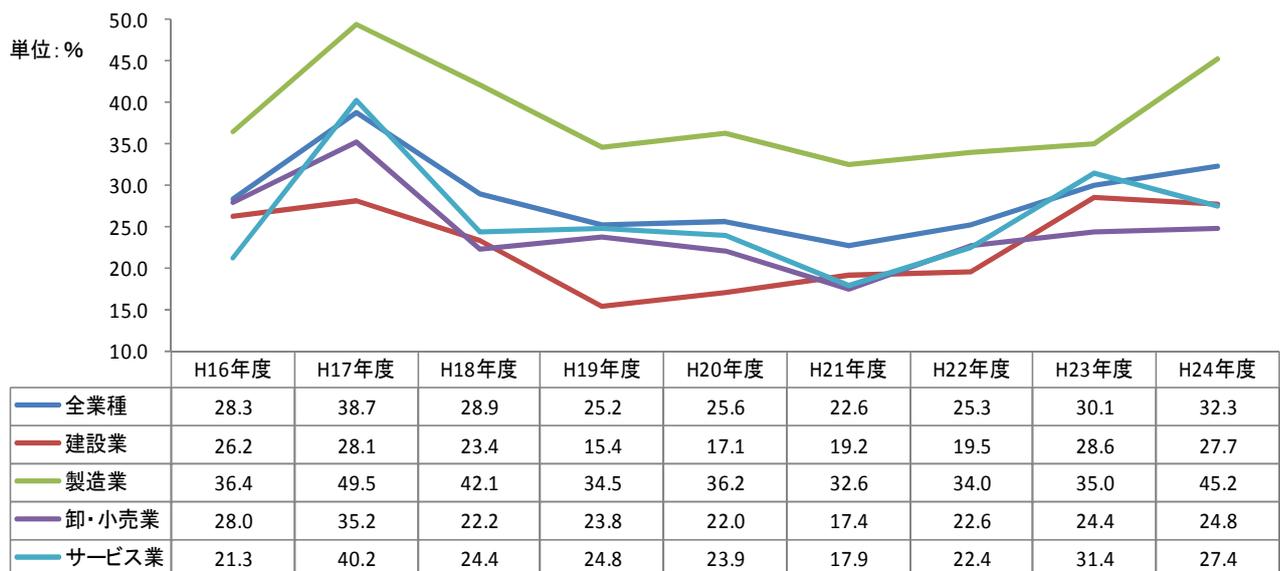
## 2. 新卒者の採用状況について

### 採用率は上昇傾向

平成 24 年度の新卒者の採用状況について尋ねたところ、全業種で 32.3%の企業が採用し、昨年と比較すると 2.2 ポイント上昇している。業種別にみると建設業で 27.7% (0.9 ポイント下落)、製造業で 45.2% (10.2 ポイント上昇)、卸・小売業で 24.8% (0.4 ポイント上昇)、サービス業で 27.4% (4.0 ポイント下落)となり、製造業、卸・小売業で採用率が上昇する一方、建設業、サービス業の採用率が下落した。

総じてみると、県内企業の新卒者の採用状況は上昇傾向である。また製造業は他業種と比較し相対的に高い採用率を維持していることが分かった。

図表 29 業種別「新卒者の採用状況」の推移



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	27	40	57	59	183
村山北部	22	42	18	20	102
最上	22	19	12	18	71
置賜	23	34	28	20	105
庄内田川	33	41	34	35	143
庄内飽海	38	37	36	40	151
合計	165	213	185	192	755

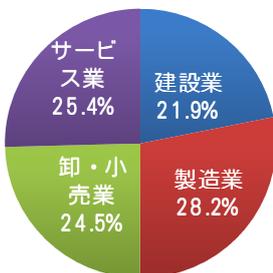
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	21	28	40	40	129
村山北部	15	31	12	11	69
最上	17	16	9	9	51
置賜	13	26	17	12	68
庄内田川	23	27	22	18	90
庄内飽海	23	27	25	23	98
合計	112	155	125	113	505

(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	77.8	70.0	70.2	67.8	70.5
村山北部	68.2	73.8	66.7	55.0	67.6
最上	77.3	84.2	75.0	50.0	71.8
置賜	56.5	76.5	60.7	60.0	64.8
庄内田川	69.7	65.9	64.7	51.4	62.9
庄内飽海	60.5	73.0	69.4	57.5	64.9
合計	67.9	72.8	67.6	58.9	66.9

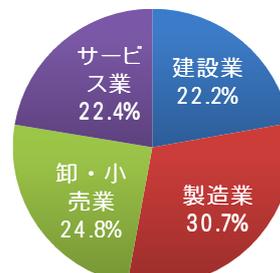
サンプル割合(業種別)



サンプル割合(地域別)



回答社割合(業種別)



回答社割合(地域別)



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査(一部FAXを利用)

● 調査期間

平成24年5月7日(月)～17日(木)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製(商)品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注)各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれD I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、算出方法は次の通り

例)自社の業況D I 値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向(良くなっているか、悪くなっているか)についても分かる

ちなみに、他のD I 値についても同様に、選択肢「1. 」(表 4「選択肢」欄をご参照のこと)を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>)にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (<http://www.f-ric.co.jp/>)「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所

研究開発グループ 熊本 均 / 高橋 富偉

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp

URL : <http://www.f-ric.co.jp/>